

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	0171400146		
法人名	社会福祉法人 敬聖会		
事業所名	グループホームききょう		
所在地	函館市桔梗町557番地 (電話) 0138-47-8033		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成19年12月4日	評価確定日	平成20年1月28日

【情報提供票より】(19年11月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 5月 1日		
ユニット数	4 ユニット	利用定員数計	36 人
職員数	30 人	常勤 29人, 非常勤 1人, 常勤換算	28.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	7,900~13,900 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,290 円		

(4) 利用者の概要(11月12日現在)

利用者人数	36 名	男性 4 名	女性 32 名
要介護1	14	要介護2	5
要介護3	10	要介護4	5
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 86 歳	最低 72 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森病院・協会函館病院・吉田眼科病院・やなせ皮膚科・大村整形外科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は函館市の閑静な山林地帯に立地しており、函館山が見渡せる環境である。名称の“ききょう”は、町名の「桔梗」と利用者の「帰郷」という意味合いが込められており、職員は日々理念を追求しながら熱意を持ってケアサービスを実践している。今後も利用者の「帰郷先」として在り続けることが期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価における課題であった地域との交流を深めるといった事項については、事業所の立地条件上難しい状況であるが、運営推進会議開催時に地域住民と接する機会があり、連携が図られつつある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各項目ごとに話し合い、一つひとつ検討しながら全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1度運営推進会議を開催しており、重要性を認識しながら活発な意見交換を行っている。また、そこで出た意見を事業所の運営に活かし、さらなる質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>重要事項説明書に内部・外部の苦情相談窓口を記載し、玄関ホールにも大きく明示している。また、職員は家族の来訪時に積極的な声かけをし、家族が気軽に苦情・相談等を伝えられる雰囲気づくりに努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所付近は山林地域のため地域と連携を取ることが難しい環境であるが、今後は運営推進会議を通じて地域に認知症の理解を広める取り組みが期待される。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域においての生活を大切にすることを盛り込んだ独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎朝の会議で理念を確認し、共有しながら日々その実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の立地条件上、日常的に地域と交流することが難しい状況であるが、運営推進会議開催時に地域住民と接する機会があり、徐々に連携が図られつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価・外部評価の意義を理解しており、全職員で話し合いながら取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、活発な意見交換を行っている。また、そこで出た意見を事業所の運営に活かし、更なる質の向上に取り組んでいる。</p>	○	<p>今後、運営推進会議を通じて地域との交流を深める取り組みが期待される。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市から講師の依頼を受ける際に連絡を取っているが、頻繁に行き来するまでには至っていない。</p>	○	<p>今後、事業所の行事等に市町村担当者を招待するなどして情報交換を行い、連絡を密にする取り組みが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態等について報告している。また、2ヶ月に1度通帳のコピーを送付したり、伝票を保管するなど、金銭管理についても適切に対応している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所内に意見箱を設置しており、家族が気軽に意見・苦情等を伝えやすい工夫をしている。また、意見等を受けた場合は職員間で話し合い、改善に努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は最小限となるよう努め、異動等があった場合は職員の配置を考慮し、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	南北海道連絡協議会や保健所主催の講習会に参加する機会を設けており、運営者は積極的な人材育成に取り組んでいる。また、内部でも新人研修や計画作成研修会を実施し、職員のスキルアップを図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道連絡協議会の会議や他事業所での実習参加により同業者と交流する機会を設け、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に事業所を見学してもらうなど、利用者が事業所の雰囲気に馴染んでからの入居となるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築けるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員は利用者との日々の関わり合いから一人ひとりの希望や意向の把握に努め、その人らしい暮らしとなるよう取り組んでいる。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用者本人・家族の意見を取り入れ、ユニット会議で話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月ごとの定期的な見直しを行うとともに、利用者本人・家族の意向や状況の変化に応じてそのつど話し合い、新たな介護計画を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	利用者家族の宿泊対応や自宅へ帰宅する際の送迎・外出時の付き添いなど、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	眼科・歯科・整形外科の往診による受診支援を行っている。また、医療機関と連携を密に取っており、緊急時に指示を受けられるような体制を築いている。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	定期的に家族を交えて話し合い、利用者の状態を考慮して方針を定めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員は利用者の誇りを損ねることのない対応を心がけており、常に穏やかに接している。また、個人情報の取り扱いにも十分配慮しており、適切に対応している。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	職員は利用者の体調を考慮し、一人ひとりのペースを大切に支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて食事の準備や後片付け等を職員とともにやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能な体制を整えており、一人ひとりの希望に応じた入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴を踏まえ、一人ひとりの力を考慮した役割の支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、定期的に外出する機会を設け、日常的に戸外に出掛けられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の理由から夜間は施錠しているが、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、年に2回避難訓練を実施している。また、居室に煙・熱を感知する装置を設置したり、災害時には消防署と連絡が取れるような体制を整えるなどして緊急時に備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日に必要な食事・水分量を摂取できるよう利用者の健康状態や習慣に応じた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くゆったりしており、車いすでも自由に移動できるような造りになっている。また、音・光にも配慮しており、利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの物が持ち込まれており、本人が安心して過ごせるよう工夫している。		

 は、重点項目。